

# 指定調査研究総合助成事業 種苗生産技術研究

## ヒラメ・カレイ類種苗生産試験

### (要 約)

高橋 邦夫・小倉大二郎

#### 1 マ ガ レ イ

- 1) 水槽内自然採卵による受精率は、最もよいもので66.7%で、人工採卵に比べて特によい値ではなかった。
- 2) 乾燥酵母とグリーンで培養したシオミズツボムシを給餌して歩留を比較したところ、乾燥酵母によるものがやゝよい結果を得た。マコガレイについても同様の結果が得られた。(浮遊期)
- 3) 野外8トン水槽に底棲直前の仔魚を4,000~16,000尾の4区分の密度で収容し、アルテミアを与えて全長30mm内外まで飼育した結果、歩留は9.1~38.8%と低い値であった。また密度による差は明らかではなかった。
- 4) 全長15mmと21mmの2種のサイズで自家配合餌料に切替えた結果、21mmの方が歩留、成長ともによかった。
- 5) 白化個体の体色変化を287日間飼育して調査した結果、黒色部の面積比が平均7.53%増加した。増加割合からみて完全回復の可能性は極めて小さいものと推察された。
- 6) 本年度は14mm内外4,600尾、30mm内外10,000尾生産し、13,600尾を放流した。

#### 2 ヒ ラ メ

- 1) 水槽内自然採卵を試みたところ、1ヶ月間にわたって産卵がみられ、相当量の採卵の見通しを得たが、受精率は不良であった。
- 2) アルテミアの給餌開始期を変えて飼育し、白化個体出現率との関連をみたが、直接的な因果関係はないものと考えられる。
- 3) 平均全長17.3、24.9、40.0mmで自家配合餌料に切替えたところ、歩留、成長とも大きいものがよい傾向を示したが、小型のものでも完全に餌付いたものでは比較的よい成長を示した。
- 4) 底棲直前から20mm台までの減耗は3~10%、底棲直後から30mm台までの減耗は3%であった。
- 5) 本年度は40mm内外のものを2,400尾生産し、2,190尾を放流した。



詳細は、昭和49年度指定調査研究総合助成事業種苗生産技術研究報告書(昭和50年2月)青森県水産増殖センターに発表した。